

1-2-10

音環境の政治的正しさについて

—音環境のバリアフリーをめぐる—

On Political Correctness of Acoustic Environments: Focusing on Barrier-free Acoustic Environments.

○永幡 幸司（福島大学）

「政治的正しさ」は、「＜言葉・表現・行動などが＞公正を期した；差別的でない」ことを意味する概念であり，障害者問題を含む，少数者の問題を考える際に援用されてきた．本報では，音響式信号機と街頭宣伝放送を事例として，「政治的正しさ」という観点から，音環境のバリアフリーのあり方を考察する．

都市は多様な人々が集まる場所であるため，その音環境に求められる要望も多種多様であり，時に対立を孕む．この時，特定の立場のみに呼応した対応をするのでは，対立を解消することは困難である（例えば，音響式信号機の音量が小さすぎれば，視覚障害者が安全かつ安心に横断歩行する権利を阻害するという点において，政治的に正しくなく，逆に音量が大きすぎれば，信号機周辺住民に我慢を強いるという点において，政治的に正しくない．）．このような状態は，一部のものにとってはバリアフリーな音環境であろうが，全体的に見ればバリアフリーとはいえないのではないか．真にバリアフリーな音環境は，多様な要望の対立が調整された先にあると考えられる．

本報では，上述2事例の考察を通して，「政治的正しさ」という概念が，音環境に対する多様な要望の対立を調整していく際の観点の一つとして有効であることを指摘する．

Keywords: 音環境, 政治的正しさ, 少数派, バリアフリー・デザイン